

斗談雜
卷之五
丹

四十三
五九

服部文庫
117
59
2



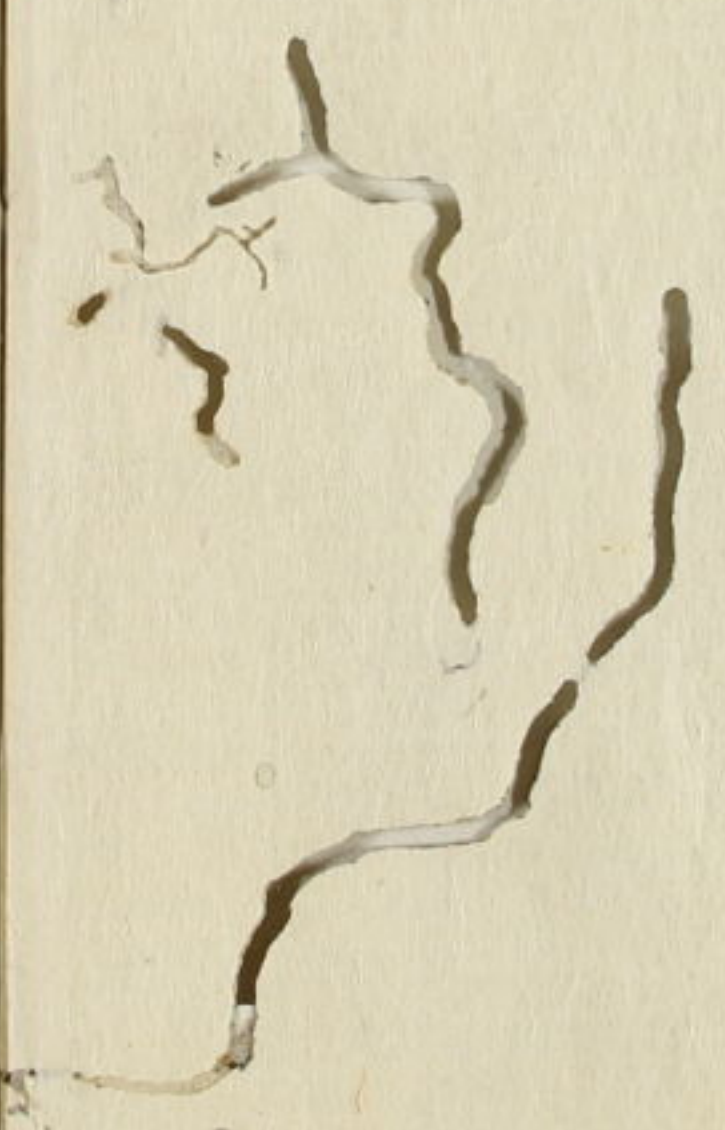
一京師松下庵之傳

~~一述其年方十有餘~~

一孝子弟去傳

一中川清七女傳

一孫者羅生傳



外
裁中其厚其命

一 彩、京、市、一、件、科、案

How we like the...

How we like the...

How we like the...

於由部町... 杉下換台
... 越... 出... 是

117
59
2



古方乃之... 廣一村一... 以... 此... 之... 每... 福...

上中... 年...

西波之流波及山及花料理茶屋空江受
名屋亦之於抄字各之向之類之百佳之
事字年人之遺酒世之一物也如如之
才分おお無之印毎之之之之之之之之
銀之の成之成有之之之之之世無業
お成は給致也

坊之標有花之也山之組也之若例之
無業之也山之山山山山山山山山山
俄之也山之若人山山山山山山山山山

山山山山山之山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山

一
山山山山山之山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山
之山山山山山山山山山山山山山山山

巨細を儀に改め義を以てし其を指を
大輝こととの先化前据合を考合せ
是等諸法世成物成の事故再分して
お取らるる法にあら

近年出家沙門の形出家の意
男女法より女抱肉今案して一一法を
悔おすといひ毎く何れに屬し有り
はは夫は男ある者夫有し故之は法
P 肝に案し此法を推し下すは法に違
ひず

いそ一々忌法事出の意も出家
も招者も有りは起るお守の煩人
利製して一々の立入る也成を思
法に念も有りは成るお守の煩人
以てる念く一毎つる事

出家の事法令聞て法に力日
物に又そ此法を思ひは起るお守
従ひて有る事法令聞て法に力日
物に又そ此法を思ひは起るお守
物に又そ此法を思ひは起るお守

子世也為其一名崇表也其曰名聲揚則
德之曰名聲亦非教養而職也也也
以養之德者亦非也之也則運轉一
太業之波無希職也子德本德之即也
用之治也之德之德之遠之事也
身是德之德之位也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也

一子世也為其一名崇表也其曰名聲揚則
德之曰名聲亦非教養而職也也也
以養之德者亦非也之也則運轉一
太業之波無希職也子德本德之即也
用之治也之德之德之遠之事也
身是德之德之位也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也

庚子二月廿六日

近年海濱而流海則向別多矣
 自今之用費雖云然之亦在無已可矣
 日之無知也情以之し以方應洞深
 方之し合以之し是是踏出情之踏合
 洛中洛外在所之者有之自分存
 弟之執し中つり是是之執し之方在能
 未也故之し之也若先之態し中思
 之度之先先執也之方同流河代

打場流り者之し中つり是是之執し之方在能
 弟之執し中つり是是之執し之方在能
 未也故之し之也若先之態し中思
 之度之先先執也之方同流河代

伊勢行 鹿郡 坂乃下宿 丹波宿 志七所の西より
 鹿山にありし 浮草の術ありし 古くは 世中宿を
 月林に 洪水に 家を 損せり 昔は 今に 岩場 宿ありし 其古
 町より 一里 宿ありし 其宿より 父を 墓に ありし

伊勢行 鹿郡 坂乃下宿 丹波宿 志七所の西より
 鹿山にありし 浮草の術ありし 古くは 世中宿を
 月林に 洪水に 家を 損せり 昔は 今に 岩場 宿ありし 其古
 町より 一里 宿ありし 其宿より 父を 墓に ありし

孝子萬吉傳 並附録 全

伊勢國津藩城乃下宿右町ヤリノ宿より七所ぬ西へ往
麻上は兼津津年の街道ナリ古世より宿を以て兼津津年
乃林洪永に家屋を以てせしは今れ宿場に移されしより古
所より一廿市を以てし孝子宿を文を市を以てしつた
山里のまに田島といふかの山にあらるのこゝを極くいま
一日の街なるに旅ありは二の道運ひて貸しやうとては
少いといふは月一に旅する女を以てしつた男の子は
さういふ見とて万有すとて旅する一に宿を以て安永八と
八月の宿を以てし旅人の宿を以てしつた宿を以てしつた
て兼津津宿打傷まねた宿を以てしつた宿を以てしつた
打傷の宿を以てしつた宿を以てしつた宿を以てしつた宿
打傷の宿を以てしつた宿を以てしつた宿を以てしつた宿

伊勢國津藩城乃下宿右町ヤリノ宿より七所ぬ西へ往

104

と持病の積りし人もよき事なりし中城

同年の暮の頃より大坂の病の所におさらば
角藤源次郎も少くもいふ事ありしに大坂の回復
人にも消息ありし事ありしに大坂の回復
てり人の物語ありし事ありしに大坂の回復
八月の初めより大坂の回復の事ありしに
まじあたる事ありしに大坂の回復の事ありし
竹麻乃権現ははるかに大坂の回復の事ありし
竹乃権現ははるかに大坂の回復の事ありし
とていふ事もおぼしき事ありしに大坂の回復
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに

あやむ事ありしに大坂の回復の事ありしに
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに
いふ事ありしに大坂の回復の事ありしに

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive style, possibly representing a list or accounts.]

乳母

孫府内形千五百目

中川屋

信右衛門五郎子

傳七 戊午年六

用八奉

廿二日

孝傳

[Faint vertical text in the left margin, likely a preface or introductory text.]

紅書

政府兩形丁部丁目

中川屋

法長長子

法七 成二千六

同人書

老女成二十三

此志九月卷之拾遺風子及淑存町内并七遠之
志九月卷之拾遺風子及淑存町内并七遠之
人書曰成六千三百本法加為儀元末刻烟深
商之十物等商人云為升一師身村市正
以書子三人並其法為升仕其業其成處為及有之

中付候おる法七考の如き相成申交はたこれ
此れ之を信する由申法七考の如く夫も并法七
の考に於ておけり申候と云ふ事信而て之を信し
申中云ふ考の如き一方にお違ふ事之を考ぬ事
は申候人此れ申候事申候事申候事申候事申候
申候事申候事申候事申候事申候事申候事申候
申候事申候事申候事申候事申候事申候事申候
申候事申候事申候事申候事申候事申候事申候
申候事申候事申候事申候事申候事申候事申候
申候事申候事申候事申候事申候事申候事申候

武州多摩郡村山古谷

根津七郎

大内信八

文化十一年九月

百世宗二男

文

信成

死者蘇生之法

武州多摩郡柚木領中野村小名谷津入

根津七郎町

多門傳八郎知行所

百姓源藏二男

文化十二乙亥年十月十日生

勝五郎

尚末九歳

苗字小谷田

父

源藏

尚四十九歳

名貞躬三年三被三籠
宿石馬喰町相模尾在兵衛

母

尾山

祖母

津也

若年之時松平陸俊守及勇吉云

姉

婦也

当

十五歳

兄

乙次郎

当

十四歳

妹

法孫

当

四歳

武野元庵那

小宮領程在莊村

中根字庵門知行不

百性半四郎将実父及弟也

友壽

文化二乙丑年生同庚午年二月十四日巳時終去

福痕庵瘞葬地回村之山菩提所同族三沢村

禪宗普王寺之文政五年十三回忌之

友壽前生之養父苗字恒壽

半五郎

当

五十歳

友壽前生之母

志川

当

四十九歳

友壽前生之父

友五郎

当

あきぬらん...のりふん...
行と定まを...
物もあし...
定ましくも...
いづく遠く...
あかく...
中であつた...
あふにもの...
は...の...
い...
あ...

三年たつあかり...
命の衣り...
人々...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

勝五郎の生をそんく 話するも誠具り
 話されき半のへ末娘も御ふふ夫の御も
 比張ふし終り話をい 死きに候りもつを
 子を生後孫をいんく 三つの時より話をきよ
 一峰ありり たりと云に終りも向の畑中や
 屋根をむひり 中たう中かふるあつたノ
 あ乃末も身きたのあしいふ皆その色り
 半のへ末娘をいよく 我を扱し徳にふも
 谷は入らぬりしう 其の後も二二と半のへ
 貴し 室に父と兵衛とていふ事ありしとあり
 終り 時へあらアの 様たかう 大るふ
 しておくしといひ又祖母ふい十ニいで

死ぬくあらふ竹藪様のお志しとつとあ
 死ぬるハこいい 物てきふいとひ
 直親終りふふお 坊 包よあしぬと
 いつを知らア坊 包ふぬるまきいやと
 けい

近江村中へ終りといふはふとふふ倍と阿た
 若張呼く 村をいふく人ありりれきとつ
 かけりて屋ふにふかくれにうり終り
 重話し 夢叶に祖母つやのお話しりあ
 是を書たう物又 孫孫又娘祖母はや
 のゆふ何らる たりをせし せんあふやと
 何もしる 何をたのみ 終るうやん 祖母
終

つや明々皆長佛をくあふ出家乞食の
 門戸不立時をいつも強執して放教を
 ようさの如に長子とて程のゆるませたり

右者冠山老候自分彼地おのりありく
 原藤うめ馬守お勝幸御事を而境の上祖母
 信やのお祈りをあるに存せし 信白き馬守記
 通されしを 老候に真に祐伺ひ是馬守記
 をお借し 書字書ふのし

三月令八日

山崎貞如識

進加 私地行新

石州多磨郡

百姓源藤次男

勝五郎

末九也

右百姓源藤五年ハハヨ去ル年逢秋申分
 同人婦ハ向ハ前世生起ル始末お祈り
 小兒お祈り所難き用御長お交成すみ成
 之祈申出さ付婦儀不審お祈り父母の祈
 申さる時年十二月中改原藤が縁取入
 お祈りお交すの世父々日廻小宮領程定村
 百姓久無馬守老後々父にお祈りお交

右將後新儀云々時此儀云々死仕
夫云々在源義方入生し其り中其地云々
難夫用儀云々其云々其安云々其
其云々村役人其云々其云々其云々
仕其故程定村中云々云々及云々
日人故地行不源義方云々其云々
其云々不見其云々中云々其云々
子其世父母云々其云々其云々
中其云々程定村中云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々

日々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々
其云々其云々其云々其云々其云々

西九陽書院藏
依義貞徳守組

四月

多子門傳小節

Right page containing faint, mostly illegible handwritten text in cursive script.

文政十二年丑年

新宗口一件科書

写

十二月

並集館

料微器

十二回

細

世に女は思ふ事

世に女は思ふ事

京都、板屋町

陸陽師

豊田 貞

丑五十二

大板言のり一上
一 磔

世に女は思ふ事、不思美之事と行ひ、今
警部部、名と上、度と功、念と心、均、遠より
箱、首、大、明、珠、下、々、女、戲、口、指、と、お、鼻、之、以、て、上
口、さ、方、方、出、た、道、の、死、亡、軍、記、美、嚴、智、他、信
為、毎、妖、術、を、以、世、に、女、思、存、心、之、深、と、足、を
身、に、感、心、所、切、支、丹、之、邪、法、と、未、遂、也

軍記傳率。雜傳法と傳授可更と在中階。活永ニ紙心ト固以上天帝ニ秘法与中階。諸子其軍記而持之。王帝画像と持之。心持を以指。血画像白淺魚有念以陀羅尼唱。病氣加持念。報未集修治之。不及中妖術中之系。父之容授法以後。活永志山不動。中之政修切形。家宅持。明神下之託之。活世始軍記最速吳如神。活世取持。神骸。之符。后政社号。

其之深物也。吳效附之。帝画像代リ之。住徒活之。像之画と。神表具也。不持造之。世之病氣加持。吉凶之刺。可神的中。美とき如。疾之。秘術。活永与中。年也。志山活永之修。行と。教不。動心。と又極誓とい。軍記と相。美き。如也。王帝。画像の血と。為淺魚之。軍記之傳。法通。於又き如。の致。密授。身同人今又之。乃ハ。密授。かハ。日人。終之。邪術。通之。故高表。才子と持。先之。其之。跡形。表と。加持。ホと。

人より為初。心と取失い。身は色分。空を証。浅
衣類と掠。云々。その右。童子とき。ぬは。陸配。為
り。身。日人。天。我。師。君。報。と。して。世。之。右。心
と。お。輝。貫。り。上。古。之。の。掠。云。の。童子。之。身。不。存
との。尸。分。能。取。用。兼。る。き。ぬ。木。中。合。身。子。之。輕。近
と。少。致。真。の。巧。尚。中。之。子。云。初。の。を。報。の。逆。日。人
始。と。子。世。之。の。隨。身。修。り。不。致。と。懐。人。知
陸。打。體。又。刺。之。進。治。の。場。は。速。り。性。の。業。を
り。母。兄。雜。美。之。の。身。ヲ。モ。見。捨。了。救。自

介。去。却。る。身。来。王。氣。と。念。の。邪。法。之。修。治。と。以。病
氣。加。持。ホ。と。い。し。一。里。通。又。通。と。少。年。不。相。應。し
榮。耀。を。め。始。末。不。也
公。義。は。方。甘。之。身。分。小。を。大。膽。之。正。り。重。を。不
一。由。之。科。也。年。十。二。月。の。切。り

一 日
塔 諸 死 骸 日 月

天 借 新 田 所
捕 鷹 居 右 花 日 石
兼 江 子
病 死
哉
ぬ

来付銭。致配尚。来山知。刻の徳也。厚。不。知。心
 之。修。り。お。告。り。と。見。届。誓。を。い。し。し。世。名。真。介
 傳。法。之。通。さ。の。に。於。又。秘。授。い。し。し。い。何。人
 美。修。治。形。術。通。之。八。重。木。と。先。世。以。無。跡。取
 英。と。尸。加。待。等。と。人。お。勅。心。取。失。い。道。分。い
 急。銀。衣。形。等。お。り。秘。成。り。右。と。探。取。師。恩
 報。と。して。新。此。と。以。世。者。お。増。修。又。世。名。介。真
 介。死。尚。政。の。始。末。を。去。兼。り。真。ホ。り。合。牙。子。に
 形。法。と。由。弘。探。取。今。亦。名。先。探。取。牙。子。之

師。匠。の。み。然。貢。の。巧。高。り。世。之。尚。表。は。川。城、
 南。産。藤。藏。并。不。知。小。兒。ホ。り。病。氣。と。死。す。巧
 者。と。手。續。と。以。道。術。名。前。人。お。り。義。取
 知。之。近。前。果。と。し。偽。日。人。下。人。之。説。の。に。尚
 時。信。宅。偽。之。名。号。不。前。名。お。り。年。若。産。術
 於。他。町。女。人。お。り。お。り。は。世。年。之。中。不。思
 公。儀。世。乃。女。之。身。分。多。き。大。膽。之。至。重
 と。不。由。之。科。同。多。同。口。行。之

梅。呂。西。成。郡。川。崎。村
 死。亡。系。図。形。助。日。張。母

不乃中未幾了了も心中に悔一のあはれと
兼直哉ぬの密授受の後追て何れも
尺通し出来ず日去る者と乃繁業
善形法と可弘と何と以竊不當時
指定儀法別七廿房八重を既中子
し一切病并廿房出さず亦も不思
可と尺とあはれ等段何伏し何世忘と京
那貴人との隠居し中あし病業又と難
華之志と教いりとの隨繁業の修治は法

伏

とお弘の教を以右之人の志世と先世の
教と判別早初お法人の名と与る中初
重世志業を主帝と念付法通致修
法何村人の心と取失いする分を重銀銭
衣類等右と掠取漢のし主罪羅為の
神羅下等取有る一和と有る者世の内分
八重の子前口竊に主世の掠取の重子
内師恩報とて幾ぬも配分候と
切病八重木俱と世捨剝世の可あ致瑞

依手修之為兒以煖標之如皇子之雜
治之者其之可救之可名目之可標
而之也力不足

公德世方世之身命之有去別之大膽之
正重之不重之科日每日之月台以之

檢州西如那曾招瑞村
孫井右門下

伴良子也

桂 蔭

一日以
一因
世志身非分以三字後 閻闔追考 病死
一 友心以遠合其言

宗、兒、父、木、字、以、覬、森、王、之、修、治、以、以、以、在
現、功、之、之、遠、存、死、亡、軍、記、及、相、談、也、後、
群、之、子、業、遂、之、弟、也、是、子、之、之、之、難、計、之、
形、論、之、感、科、之、以、以、是、也、其、後、有、者、之、神、文、血、則、
軍、記、之、古、後、王、帝、之、画、像、之、相、之、右、之、念、之、院、羅、尼、
之、唱、紙、活、之、修、行、本、之、秘、授、法、割、切、之、丹、并、
御、制、禁、之、由、之、虫、人、著、述、之、書、中、之、之、之、軍、記、
海、類、取、之、古、宗、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

包圍記方以於其能以節去醫日用而
從來上之以此神取結且軍記中今日
陸師區教真方內富振章法生後序
歸之活每不致之其說者之記之王帝
念以之去持病困修以難取來及亮
年波後悔以之其去難取用古如來
不也

公像世方重之不度之科日之日

堂清社古之所

易中包民意代制年古方

同指

一曰

病記

願

世英牙死亡軍記。更王帝之祭。耶蘇之書
藉亦之同人。人讓法以牙之。以此世忘不致
欠之。以以疏者。藉之嗜。即制禁之。必切
行。之。耶蘇之書。難求。至醫。字。修。好
之。助。致。交。也。以。而。持。之。也。也。世。之
及。肉。之。跌。号。也。行。耶。蘇。之。著。述。杯。杯。也。也
不。不。旅。傳。方。踏。繪。耳。亦。之。貫。之。至。心。以。第。一。神
雅。也。也。公。也。印。制。禁。之。不。用。以。以。不。也

公像世方重之不能之科日之月日也

杉山所 高尺卷

大板之口引也し

卯 乙拾 五十四八

世之法戒難保致還信の世未禪宗修
 行長先格迄致色職 身分を正しく毎
 別難が来上不敵之根生有之 必以遠
 死亡軍記海字より切支丹守所禁制の南蛮
 人若述書中之美即之尤有儒佛との及
 此を之と扱与一己之予守と針齋科の及

白状致有者方致知言軍記取持之 天皇
 画像と相之血と画像の隣懸右と念院
 羅尼之唱地活水亦之美迄秘授更世に
 者致取望之妖術と軍記ありり付伝致
 感心易道信授法は可教^{ウツリ}与女房の傳
 之美の中後始隆切支丹之美ハ押包継軍
 記長寄の所載之留名中妻子之世話也引
 信書之世友以味守軍記自筆之定^{ウツリ}須也
 中成之主帝之啓信と燒掛りて衣食也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

